

1 単元名 人間と動物の関係について考えよう ～椋鳩十が描いた世界～

2 単元目標

【知識・技能】

- 作品の中の表現の工夫に気づき、椋鳩十の情景描写の魅力を味わうことができている。〔(1)-ク〕
- 叙述と叙述との関係付けの仕方、図などによる関係の表し方を理解して使うことができる。〔(2)-イ〕
- 椋鳩十の様々な作品を読むことは、自分の見方・考え方を広げることに役立つことを理解している。〔(3)-オ〕

【思考力・判断力・表現力等】

- 大造じいさんとガンの相互関係や心情の変化などについて、人物の言動や情景描写を基に捉えることができる。〔C(1)-イ〕
- 大造じいさんとガンの人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。〔C(1)-エ〕
- 椋鳩十作品で読み取ったことを基に、自分の考えをまとめることができる。〔C(1)-オ〕
- 椋鳩十作品を読んでまとめた意見や感想を共有し、考えを広げることができる。〔C(1)-カ〕

【学びに向かう力、人間性の涵養等】

- 表現や構成等に注目して椋鳩十が描いた作品世界をとらえることに粘り強く取り組み、課題解決の見通しを立てるとともに、自ら学びを調整しながら自分の考えをまとめたり、友達と聴き合ったりしようとしている。

3 単元について

(1) 教材観

本単元のねらいは、「椋鳩十の作品を読むことを通して、動物に対する人間の心情の変化を叙述にそってとらえ、人間の考えを変えた動物の生き方について、自分の考えを広げたり深めたりすること」である。「大造じいさんとガン」は、ガンの頭領「残雪」と狩人「大造じいさん」との間にくり広げられる生存のための厳しい闘争の中で、生きる美しさや命の尊さ、人間と動物の共生について心を動かされている大造じいさんの人物像が生き生きと描かれている。文章構成は、「前書き」と「本文」に分けられている。前書きからは、語り手である「わたし」が「大造じいさん」と出会うことで、その人柄や語りの魅力にひかれていった様子が読み取れる。本文は4つの場面に分かれており、大造じいさんと残雪の闘争が起承転結の形で展開され、大造じいさんの残雪に対する考え方の変化をとらえることができる。物語の転換や物語の山場で、情景描写とつなげて大造じいさんの心情を読み取り、残雪をいまいましく思っていた大造じいさんの考え方を大きく変えた残雪の生き方をとらえることができる。文章表現においては、大造じいさんの思いが表れている情景描写、呼称の変化、色彩語、比喩表現、文末表現などが優れている。椋鳩十の他の作品にも人間と動物の関係を描いた作品が数多く見られ、「大造じいさんとガン」を読んだときと同じ視点で他の椋鳩十の作品を読み進めることは、主体的に物語を読む児童を育てる上で価値高いと考える。

(2) 児童観

本学級の児童は本を読むことが好きで、図鑑・実用書・歴史物・科学物・小説など、自分が選んだ本を楽しく読んでいる姿が見られる。しかし、課外読書については自分から進んで読書活動を行う児童とそうではない児童に二極化している。一学期単元「作家で広げるわたしたちの読書」では作家読みを体験し、同一作家の作品（重松清の作品「カレーライス」「小学五年生」他）を重ね読んで作家の魅力に迫る読み方を身に付けている。しかし、人物の言動や情景描写をもとに登場人物の相互関係や作品の全体像をまとめたりする学習については十分ではない。また、作品を読んでまとめた考えを共有し、自分の見方・考え方を広げたり深めたりする経験については十分ではない。

(3) 方法観

「学習目的の理解」の段階では、動物作家椋鳩十の紹介や椋鳩十の少年期のこと、執筆中の時代背景から、「椋鳩十さんは、作品の中でどのような『生きる美しさ』を伝えているのだろう。」という学習のめあてをとらえられるようにする。「構造と内容の把握」の段階では、題名読みをした後、全文を通読してから生まれる疑問から読みのめあて「大造じいさんの残雪に対する考えの変化を読み取り、残雪の生き方を考えよう。」をつくる。「精査・解釈」の段階では、大造じいさんのガンに対する心情の変化を大造じいさんと残雪の相互関係の変化と大造じいさんの考えを変化させた残雪の生き方について叙述にそって読んでいく。交流活動では、グループや全体で考えを聴き合い、自分の考えを強化・付加・修正し、再構築できるようにする。「考えの形成」の段階では、椋鳩十の他作品を重ね読むようにする。「大造じいさんとガン」と同じ視点で他の作品を読み進め、椋鳩十作品に描かれた「生きる美しさ」について考えをまとめるようにする。「共有」の段階では、「大造じいさんとガン」と他の椋鳩十作品を読んでまとめた椋鳩十作品に描かれた「生きる美しさ」について交流する。交流活動では、グループや全体で考えを聴き合い、自分の考えを強化・付加・修正し、再構築できるようにする。「自己評価」の段階では、学習プリントにアンケート項目や記述式を設け、どの児童も単元全体の学びを比較活動からふり返りやすいようにする。

(4) ESDとの関連

- ・ この教材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- 【多様性】椋鳩十が描いた作品世界には、時間と空間を超えて大切にすべき「関係」を軸にした生き方や考え方がいろいろある。
- 【相互性】人間と動物の「関係」は私たちの生活と密接な関係にあり、このことを無視して生き続けていけば様々な関係性に大きな負荷がかかる。
- 【有限性】人間も動物も命が無限に存在するものではないことをふまえ、大量生産・大量消費による命の粗末な扱いを問題視することが重要である。
- 【公平性】人間が、自分だけの経済的な損得にばかり気をとらわれて生きてると、いつか様々な「関係」が崩れ、相手からの恩恵を受けられなくなることを考えて生きていくべきである。
- 【連携性】人間も動物も自然界の中でつながっており、互いの命が平等に扱われることが、良好な関係を保ちながら共存していくことになる。
- 【責任性】自然界で共存する人間と動物のことを「生きる美しさ」からとらえ直し、相手の存在に感謝するとともに、相手を認めながら行動することが大切である。

- ・ この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- 【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】
作品の主題に迫るような読み方ができているか、生きる美しさ考えた行動ができているか、自分の学び方や生き方を見つめ直すことができる。
- 【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】
椋鳩十作品を「生きる美しさ」を軸に重ね読み、作品の類似点に着目することで、作品と作品をつなげて椋鳩十作品の主題を複数の作品の叙述を根拠にして読み深めことができる。
- 【コミュニケーション力】
椋鳩十作品から読み取った自分の考えを「考えフリップ」という形式でまとめ、聴くことに主眼を置いた「聴き合い活動」を中心に交流することで、互いの考えを比べながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 【進んで参加する態度】
椋鳩十の作品を進んで読書し、複数の作品の叙述を根拠にして作品の主題を考えたり、友達と考えを進んで聴き合ったりして、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。

- ・ 本学習で変容を促すE S Dの価値観

【世代間の公正を意識できる】

棕鳩十の作品と当時のインタビューを重ね読み、「棕鳩十が描いた作品世界」と「棕鳩十が生きた時代背景」をつなげて考えることは、「動物の習性にことよせて、生きる美しさ、意義を書こうと思った。」という棕鳩十の考えをとらえることにつながる。

【人権・文化を尊重する】

棕鳩十の作品と当時のインタビューを重ね読み、「生きる美しさ」に視点として生き方・考え方を読み取ることが、身近な平和だけでなく、世界平和の維持・実現に向けた生き方・考え方を育むことにつながる。

【幸福感を大切にす】

棕鳩十の作品に描かれた「生きる美しさ」を読み取ることが、自分の幸福だけでなく相手の幸福も考え、身近な行動の変化をうながすことになり、「幸せを感じる心」を育むことにつながる。

- ・ 達成感が期待されるSDGs

- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

- ・ 単元の評価基準

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 作品の中の情景描写や呼応の変化などの表現に気づき、棕鳩十独特の表現の魅力を味わうことができている。	① 人物の言動や情景描写をもとに登場人物の相互関係をとらえることができている。	① 棕鳩十が描いた作品世界をとらえることに粘り強く取り組もうとしている。
② 様々な作品の中の叙述と叙述との関係付けの仕方、図などによる関係の表し方を理解して使うことができている。	② テーマに沿って、棕鳩十の複数の作品を比べ読み、思考ツールを活用して自分の考えをまとめることができている。	② 学習の見通しをもって、自ら学びを調整しながら自分の考えをまとめたり、友達と聴き合ったりしようとしている。
③ 棕鳩十の様々な作品を読むことは、自分の見方・考え方を広げることに関与することを理解している。	③ 人物像や物語の全体像を想像したり、友達と考えを共有したりすることで、自分の見方・考え方を広げ深めることができている。	③ 棕鳩十の時間と空間を超えた生き方・考え方の価値に気づき、これからの自分の行動につなごうとしている。

単元構想図（国語科「人間と動物の関係を考えよう～椋鳩十が描いた世界～」）

見 つ め る	椋鳩十さんのインタビューを視聴して、椋鳩十さんが描きたかったことを考えよう。		人間と動物の関係から「生きる美しさ」について考えるために、椋鳩十さんの様々な作品に出会ったり、出会いの作品「大造じいさんとガン」を読んだりしよう。	
児 童 の 思 考	椋鳩十さんが生きた時代には、戦争があっ ていて生きるとは卑怯だと考えられていたなんて…。	椋鳩十さんは、動物の習性にことよせて、作品を通して、生きる美しさ、生きる意義を伝えようとした。	椋鳩十さんの様々な作品の中には、人間と動物の関係の中に同様な「生きる美しさ」が描かれているのだろう。	題名にもなっている「大造じいさんとガン」は、どのような登場人物で、互いはどのような関係なのだろう。

椋鳩十さんは、作品の中で、どのような「生きる美しさ」を描いているのだろう。

調 べ る	椋鳩十さんの「大造じいさんとガン」を読み、人間と動物の関係について考えよう。 【「大造じいさんとガン」の読みのめあて】 大造じいさんの残雪に対する考えの変化を読み取り、残雪の生きる美しさを考えよう。			
児 童 の 思 考	大造じいさんとガンは敵同士のような関係とも言えるが、場面が進むごとにライバル関係でもあり、友達や家族のような関係であると言える。どうして、場面を追うごとに関係が変化していったのだろう。	場面を追うごとに大造じいさんは、残雪の行動に感心するようになり、残雪をガンの英雄と思うようになっていった。二人の関係の変化させたのは、残雪の「生きる美しさ」が関係していると思う。	残雪の「生きる美しさ」は、命がけて仲間を守ろうとする行動力だと思う。その姿に感動して、大造じいさんは自分の生き方や考え方を改めることになった。大造じいさんの残雪に対する考えの変化は、椋さんから僕等へのメッセージみたい。	戦争中、日本と敵同士の関係の国があったこと、大造じいさんとガンの関係はつながっていて、敵だけ相手のよさに目を向けるために、椋鳩十さんはライバル関係に変化していくような物語の展開にしたのだと思う。

深 め る	【重ね読みのめあて】 複数の作品を重ね読み、椋鳩十さんが伝えたい「生きる美しさ」について考えを深めよう。 【「大造じいさんとガン」と重ね読みする作品】 「片耳の大シカ」「月の輪グマ」「金色の川」など			
児 童 の 思 考	「片耳の大シカ」 大シカが大将として仲間を守る責任感や、敵であるはずの人間を自分たちの毛皮で温めて助ける優しさに「生きる美しさ」を感じた。	「月の輪グマ」 母グマは滝つぼめがけて飛び込んで、親として家族である子グマを命がけて助ける勇気に、「生きる美しさ」が描かれていると思った。	「金色の川」 狩人が近くにいるにも関わらず、老いたカワウソがいきなり子カワウソの首ねっこをくわえてはねあがった家族の命を救う家族愛に、「生きる美しさ」があると考えた。	「生きる美しさ」とは、命をかけて仲間や家族を助ける行動力だと思いました。その行動力に、人間は胸を打たれ、自分の生き方や考え方を改めようとしているのだと思った。

広 げ る	椋鳩十さんが伝えたい「生きる美しさ」をもとに、自分の生き方・考え方を捉え直そう。			
児 童 の 思 考	動物たちが命をかけて仲間や家族を助ける行動が素晴らしいと思った。また、人間が動物の行動から心情を変化させるところも心に残った。これからの学習でも、登場人物の行動に着目して読み、心情の変化を読んでいきたい。	椋鳩十さんが伝えたい「生きる美しさ」を、動物の習性にことよせて描いているところが格好いいと思った。これからは、国語の学習だけでなく、様々な教科で「命」の大切さや「関係」の大切さを見つけていきたい。	平和の尊さについて考えることは大切さだと感じた。敵として見るのではなく、相手として接することで、相手のよさが見えてくるのではないかと思った。これからの学習場面や生活場面では、相手のよさに目を向けていきたい。	

4 単元の指導計画（全9時間+課外 本時8/9時）

段階	主な学習活動と内容	支援と手立て	配時
学習目的の理解 構造の内容と把握 精査・解釈 考えの形成・共有 自己評価	1 単元名や単元計画をとらえ、動物作家である椋鳩十の生い立ちや当時のインタビューなどから学習のめあてをつくる。 ○ 人間と動物の関係について考えていくこと ○ 椋鳩十さんは生きる美しさにこだわったこと ○ 椋鳩十さんは動物の習性にことよせて書いたこと 【学習のめあて】 椋鳩十さんは作品の中でどのような「生きる美しさ」を描いているのだろう。	※事前に自作の「椋鳩十童話集」を配布し、並行読書を促していく。 ※生前の椋鳩十インタビュー動画を視聴することで、椋鳩十が描きたかったことを捉えやすくする。 ※単元名や単元計画に加え、動画の感想を中心に、学習の見通しをもてるようにする。	1
	2 「大造じいさんとガン」を読む。 (1) 「大造じいさんとガン」を題名読みし、初読のめあてをつくる。 【初読のめあて】 大造じいさんとガンはどのような関係なのだろう。 (2) 「大造じいさんとガン」の読みのめあてをつくる。 ○ 大造じいさんとガンの関係の変化を考えること ○ 関係が変化した理由を考えること 【読みのめあて】 大造じいさんの残雪に対する考えの変化を読み取り、残雪の生き方を考えよう。	※単元名とつなぐことで、題名読みの際の疑問を焦点化する。 ※ガンについて、浮世絵や挿絵をもとに、日本で昔から親しまれている鳥であることと群れて行動する鳥であることをおさえる。 ※初読でとらえた関係を短冊や一覧表に表し、考えを比較しやすいようにする。 ※大造じいさんが再び銃を下ろしたという行動に疑問を抱かせることで、物語の構造の把握につなぐ。	5 ①
	(3) 大造じいさんの考えの変化や残雪の生き方から、大造じいさんと残雪の関係について考える。 ○ 視点に沿って場面ごとに関係をまとめること (4) 作った考えをもとに聴き合い、大造じいさんと残雪の関係や生きる美しさについて考える。 【大造じいさんと残雪の関係】 大造じいさんが残雪を認めたライバル関係 【残雪の生きる美しさ】 命がけて仲間を守ろうとする行動力	※考えフリップのモデルや学びの手引きを用意することで、自分の考えをまとめられるようにする。 ※パネルディスカッション形式で聴き合い活動を行うことで、提案児童の考えが広がるようにする。 ※	① ② ①
	3 他の椋鳩十作品を重ね読む。 (1) 「月の輪グマ」「片耳の大シカ」「金色の川」などを重ね読み、自分の考えをまとめる。 ○ 最も「生きる美しさ」が表れていると思う作品をひとつ選び、自分の考えをまとめること (2) 重ね読んで作った考えを聴き合い、生きる美しさをもとに人間と動物の関係について考える。【本時】	※「動物の生きる美しさ」「人間の心情の変化」「情景描写」が表れているところにサイドラインを引いた後、考えをまとめるようにする。 ※パネルディスカッション形式で聴き合い活動を行う。	2 ① ①
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の勇気ある行動により、人間と動物の関係が対等になることを伝えたかった。 ・ 敵対関係ではなく、相手を認めて少しでも仲を深めてほしいと伝えたかった。 ・ 戦争で誰も死んでほしくない、命を大切にしてほしいという思いが伝わってきた。 </div>			
4 単元全体をふり返る。 ○ 自己評価カードにそって学びをふり返ること ○ 単元の学びとつないで、椋鳩十さんへの手紙の内容を考えること	※自己評価プリントを準備し、学びをふり返りやすいようにする。 ※手紙のモデルを提示することで、どの児童も取り組みやすいようにする。	1	

5 本時 11月30日(木曜日) 帯タイム&5校時 於:5年1組教室

6 本時目標

- 椋鳩十作品の中の表現の工夫に気づき、人間の考え方を変えた動物の生き方について叙述をもとに味わうことができる。[知識及び技能]
- 人間と動物の相互関係や心情の変化について、重ね読みしてまとめた「生きる美しさ」を友達と共有し、自分の考えを広げることができる。[思考力、判断力、表現力等]
- 人間の考え方を変えた動物の生き方をもとに粘り強く交流し、椋鳩十作品に描かれた「生きる美しさ」について自分の考えをまとめる意欲を高めている。[学びに向かう力、人間性等]

7 本時指導の考え方

これまでに児童は、椋鳩十作品を意欲的に重ね読み、学習のめあて「椋鳩十さんは作品の中でどのような『生きる美しさ』を描いているのだろう。」の解決に向けて、「大造じいさんとガン」との共通点や相違点を考えながら自分の考えを読み取り図にまとめている。読み取り図は、「生きる美しさ」「キャッチコピー」「情景描写」「人間の行動」「動物の行動」といった視点に沿ってまとめられている。

そこで本時では、選んだ作品が異なる異質による聴き合い活動や3人の提案児童による全体での聴き合い活動(パネルディスカッション)を行い、椋鳩十が作品の中で描いた「生きる美しさ」について読みを広げたり、深めたりしていく。まず、グループで聴き合う。ここでは、自分とはちがう考えに出会うことで、考えを付加したり修正したりする姿が見られるだろう。次に、提案児童の考えをもとに全体での聴き合い、椋鳩十が作品の中で描いた「生きる美しさ」について、読みを広げ深められるようにしていきたい。さらに、「椋鳩十さんは、人間と動物のどちらの生き方が大切だと思っているのでしょうか。」「人間と動物の関係はどのようになっていきましたか。」と問いかけ、学習のめあての解決に向かわせたい。最後に、聴き合い活動を通して見つけた友達の考えやキーワードをもとに、椋鳩十が様々な作品の中で描いた「生きる美しさ」について自分の考えをまとめる。この時、根拠となる作品や考え、叙述をもとに自分の考えをまとめられることを期待している。

【児童の考えフリップ(片耳の大シカ編)】

椋鳩十さんが動物作品を通して伝えたかった「生きる美しさ」					
助けあう大シカ					
<p>題名 片耳の大シカ 著者 椋鳩十 挿絵 大塚 誠</p>	<p>キャッチコピー 助け合う命</p>				
<p>場所 鹿児島県屋久島</p>	<p>片耳の大シカ ・耳が身を守る役割 P128, 54行~77行 特長 ・狩人のヤロを覚える P128, 54行</p>				
<p>アイテム 古い二連発銃 Rは2.6行 きりがほらのほうあ P137, 67行</p>	<p>場面ごとの関係</p> <table border="1"> <tr> <td>1 でき回す</td> <td>3 西で撃たない</td> </tr> <tr> <td>2 でき回す</td> <td>4 助け合う</td> </tr> </table> <p>関係が良くなっていく</p>	1 でき回す	3 西で撃たない	2 でき回す	4 助け合う
1 でき回す	3 西で撃たない				
2 でき回す	4 助け合う				
<p>情景描写 P128 7行 冬の山は墓場みたいで気味悪い... 宋亮がわらわらを表していると思う。</p>					
<p>おじさんは白い歯を みせて、「さうした、P137の行 とさう、うれしそこの笑い。 さうさうとうなちて、その笑 いさかめこさした。 両てき入るうじたい、大塚</p>	<p>片耳の大シカはどつどつ頭 をしゃげ、大に向かてその 大きな角を振りかたて、 ようであつた。いかに 仲間を守ろうとして、 仲間を近づくな!!と思 て、いかにリリーグ的なまをさ シカなちは、べつにさわかた てもしななかつた。さうさう 向として、も生きへのびたい 敵まを成心じなかつた。 おじさんたちの気持ちなな つた。感動した。</p>				

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	※ 主な支援・手立て
<p>1 前時学習をふり返り、本時学習のめあてをとらえる。</p> <p>○ 「大造じいさんとガン」「片耳の大シカ」「月の輪グマ」「金色の川」などの椋鳩十の作品を重ね読み、椋鳩十が様々な作品の中で描いた「生きる美しさ」について自分の考えを作ってきたことをふり返ること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 聴き合い活動をして、椋鳩十さんが描いた「生きる美しさ」について自分の考えを深めよう。</p> </div>	<p>※ICTを活用して円滑に既習の確認をしたり、単元文庫の椋鳩十の本を紹介したりすることを通して、椋鳩十が伝えたい「生きる美しさ」について考えてきたことをふり返られるようにする。</p>
<p>2 椋鳩十が描いた「生きる美しさ」について考えを深める。</p> <p>(1) グループで聴き合い活動を行う。</p> <p>○ 生きる美しさ、キャッチコピー、情景描写、人間の行動、動物の行動などを視点に質問を考えること</p> <p>グループによる聴き合い活動における質問の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして～と思ったのですか。 ・ どこから～と思ったのですか。 ・ ～とはどういう意味ですか。 ・ AとBのちがいは何ですか。 ・ AとBはどのように(どうして)つながるのですか。 ・ 他に理由となる言葉や文はありますか。 <p>(2) 全体で聴き合い活動(パネルディスカッション)を行う。</p> <p>○ 質問や意見を考えることに加え、「生きる美しさ」について考えること</p>	<p>※前時までにとまとめた読み取り図と質問のヒントを同時に提示することで、聴き合い活動の構えをつくるようする。</p> <p>※グループで聴き合い活動を行うことで、考えを強化・付加・修正しやすいようにする。</p> <p>※質問の視点や質問の仕方を提示することで、自分の考えと比べやすいようにする。</p> <p>※スクリーンで提案児童の考えの提示することで、考えを共有しやすいようにする。</p>
<p>【人間と動物の関係を通して椋鳩十が描いた「生きる美しさ」】</p> <p>「大造じいさんとガン」 … 仲間を導く知恵 仲間を守る行動力</p> <p>「片耳の大シカ」 … 仲間を守る責任感 敵味方関係なく助ける心</p> <p>「月の輪グマ」 … 子熊の命を助ける勇気 子熊を思う母の愛</p> <p>「金色の川」 … 子カワウソを救う思いの強さ 家族の命を救う家族愛</p>	<p>※提案児童の読み取り図を事前に配布しておくことで、質問を考えやすいようにしておく。</p> <p>※提案児童の考えを構造的に板書することで、考えの共通点を把握しやすいようにする。</p> <p>※全体での聴き合い活動の終盤から、椋鳩十が描いた「生きる美しさ」や「人間と動物の関係」について考えを広げられるように、</p>
<p>3 本時学習をまとめる。</p> <p>○ 様々な考えや根拠となる場面をもとにして「人間と動物の関係」や「生きる美しさ」について自分の考えをまとめること</p> <p>キーワード 生きる美しさ、人間、動物、関係</p> <p>まとめの例 椋鳩十さんが伝えなかった「生きる美しさ」は、仲間や家族のために自分の力を役立てることだと思います。椋鳩十さんは、人間と動物の関係を描いて、相手を認めることや命の大切さを伝えなかったのだと思います。</p>	<p>※考えをまとめる条件やキーワードを提示することで、「生きる美しさ」をまとめやすいようにする。</p> <p>※まとめ方を載せた学習ノートを用意することで、ふり返りやすくする。</p>

9 成果と課題（国語科の目標から）

【知識・技能】

- ・ 作品の中の表現の工夫に気づき、椋鳩十の情景描写の魅力を味わうことができている。
 - ・ 叙述と叙述との関係付けの仕方、図などによる関係の表し方を理解して使うことができる。
 - ・ 椋鳩十の様々な作品を読むことは、自分の見方・考え方を広げることに役立つことを理解している。
- 椋鳩十の様々な作品を読むことを通して、情景描写を中心に椋鳩十独特の表現の魅力を味わうことができたとともに、自分の見方・考え方を広げることに役立つことを理解することができた。
- 考えフリップにまとめることを通して、叙述と叙述の関係付けや図による関係の表し方を理化学して使うことができた。
- 単元末に椋鳩十新聞の作成に取り組むなど、作品をより俯瞰的に読む機会を設けることで、椋鳩十独特の表現の魅力により浸ることができたり、図による関係の表し方を工夫できるようになるのではないだろうか。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 大造じいさんとガンの相互関係や心情の変化などについて、人物の言動や情景描写を基に捉えることができる。
 - ・ 大造じいさんとガンの人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。
 - ・ 椋鳩十作品で読み取ったことを基に、自分の考えをまとめることができる。
 - ・ 椋鳩十作品を読んでまとめた意見や感想を共有し、考えを広げることができる。
- 「生きる美しさ」を視点に椋鳩十の作品を人物の言動や情景描写をもとに重ね読むことは、単元を通して螺旋的に自分の見方・考え方を深めていくことにつながった。
- 作品のクライマックス場面の叙述に立ち止まることで、物語の全体像を把握しながら想像を広げて読むことができた。
- 学びの手引きやフリップモデルを活用することで、どの児童も考えフリップに自分の考えをまとめることができた。
- 読んでまとめた意見や感想をペアや全体（一覧表・パネルディスカッション）で聴き合うことに加え、学習プリントの自己評価欄を工夫することにより、自分の考えを強化・付加・修正することができた。
- 重ね読む際の視点や、重ね読む目的、重ね読む作品選び、読む作品数、読む期間、読みのまとめ方（思考ツールの活用）などを再検討することで、児童が自ら学びを調整できるようになるだけでなく、読みの広がり方や深まり方にちがいが出てくるのではないだろうか。

【学びに向かう力、人間性の涵養等】

- ・ 表現や構成等に注目して椋鳩十が描いた作品世界をとらえることに粘り強く取り組み、課題解決の見通しを立てるとともに、自ら学びを調整しながら自分の考えをまとめたり、友達と聴き合ったりしようとしている。
- 単元導入時のオリエンテーションや教師作成の椋鳩十童話集の並行読書により、自ら学びを調整しながら学習の見通しをもって自分の考えをまとめたり、友達と聴き合ったりしながら椋鳩十が描いた作品世界をとらえることに粘り強く取り組むことができた。
- 児童が並行読書の計画を立てることや一人一台端末を活用した読書環境を整えること、夏季課題として椋鳩十読書を取り入れることなど、児童の主体的な学びを支援する方法はいくつもあるのではないだろうか。

10 成果と課題（この教材で働かせるESDの視点と学習を通して育てたいESDの資質・能力から）

・ この教材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【多様性】 椋鳩十が描いた作品世界には、時間と空間を超えて大切にすべき「関係」を軸にした生き方や考え方がいろいろある。

【相互性】 人間と動物の「関係」は私たちの生活と密接な関係にあり、このことを無視して生き続けていけば様々な関係性に大きな負荷がかかる。

【有限性】 人間も動物も命が無限に存在するものではないことをふまえ、大量生産・大量消費による命の粗末な扱いを問題視することが重要である。

【公平性】 人間が、自分だけの経済的な損得にばかり気をとらわれて生きてると、いつか様々な「関係」が崩れ、相手からの恩恵を受けられなくなることを考えて生きていくべきである。

【連携性】 人間も動物も自然界の中でつながっており、互いの命が平等に扱われることが、良好な関係を保ちながら共存していくことになる。

【責任性】 自然界で共存する人間と動物のことを「生きる美しさ」からとらえ直し、相手の存在に感謝するとともに、相手を認めながら行動することが大切である。

○ 椋鳩十が描いた「生きる美しさ」を考えるために、複数の椋鳩十作品を重ね読むことは、椋鳩十の描いた世界を読み広げ、その主題を読み深めていく上で大変価値高く、ESDの視点（見方・考え方）【多様性】【連携性】【責任性】を働かせることにつながった。

● この教材で働かせるESDの視点（見方・考え方）の【相互性】【有限性】【公平性】については、児童のとらえが不十分であったことをふまえると、国語科と他教科をつなぐカリキュラム・マネジメントを試みる実践や年間を通した「関係」をテーマに学びを深めていく実践が望まれる。

- ・ この学習を通して育てたいESDの資質・能力

【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】

作品の主題に迫るような読み方ができているか、生きる美しさ考えた行動ができているか、自分の学び方や生き方を見つめ直すことができるている。

【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】

椋鳩十作品を「生きる美しさ」を軸に重ね読み、作品の類似点に着目することで、作品と作品をつなげて椋鳩十作品の主題を複数の作品の叙述を根拠にして読み深めことができる。

【コミュニケーション力】

椋鳩十作品から読み取った自分の考えを「考えフリップ」という形式でまとめ、聴くことに主眼を置いた「聴き合い活動」を中心に交流することで、互いの考えを比べながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【進んで参加する態度】

椋鳩十の作品を進んで読書し、複数の作品の叙述を根拠にして作品の主題を考えたり、友達と考えを進んで聴き合ったりして、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。

○ 重ね読んでつくった自分の考えをフリップに整理することは、どの児童も取り組みやすく、より深い思考を働かせることができたと言える。また、フリップにまとめる視点が明確であることが聴き合い活動の活性化を促し、友達の考えに対して質問や確かめを行うだけでなく、自分の意見を付け加えていくことができるため、考えに深まりや広がりが見られた。このことは、学習を通して育てたいESDの資質・能力【コミュニケーション力】【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】【進んで参加する態度】を育むことにつながったと考える。

● 【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】における作品の主題に迫るような読み方については概ね達成できていたと言えるが、「生きる美しさ考えた行動ができているか」の見取りについては十分ではない。椋鳩十作品から読み取った考え方や生き方を自分の行動につなげられたかどうかを見取っていくには、継続的なふり返りや他の教育活動との連携が欠かせない。

- ・ 本学習で変容を促すE S Dの価値観

【世代間の公正を意識できる】

椋鳩十の作品と当時のインタビューを重ね読み、「椋鳩十が描いた作品世界」と「椋鳩十が生きた時代背景」をつなげて考えることは、「動物の習性にことよせて、生きる美しさ、意義を書こうと思った。」という椋鳩十の考えをとらえることにつながる。

- 「椋鳩十が描いた作品世界」と「椋鳩十が生きた時代背景」をつなげて考えるために、複数の椋鳩十作品を重ね読むことは、本単元名にある「人間と動物に関係について考えよう」のねらいのひとつでもある作品が時間と空間を超えることにつながり、世代間の公正を意識できることにもつながった。

さらに、

- 他教科や教科以外の様々な教育活動とつないだ実践やSDGsとつないだ実践を試みることで、世代間の公正だけでなく、世代内の公正にもつながるのではないだろうか。

【人権・文化を尊重する】

椋鳩十の作品と当時のインタビューを重ね読み、「生きる美しさ」に視点として生き方・考え方を読み取ることが、身近な平和だけでなく、世界平和の維持・実現に向けた生き方・考え方を育むことにつながる。

- 単元の導入で、生前の椋鳩十のインタビュー動画を視聴し、「自由放浪の山の民を描いた作品が発売禁止になったこと」、「戦時中の思想統制により『自由に生きる』姿は描けなかったこと」、「動物の習性にことよせて、生きる美しさ、意義を書こうと思ったこと」、「命の尊さを伝えなかったこと」などをとらえていたことが、世界平和の維持・実現に向けた生き方・考え方を育むことにつながった。

さらに、

- 平和学習とつないだり、ウクライナやイスラエルの問題とつないだりすることで、作品が時間と空間を超えたものになるはずである。様々な教育活動とつないで学びを広げたり深めたりしていくためにも、さらなるカリキュラム・マネジメントの工夫が求められる。

【幸福感を大切に作る】

椋鳩十の作品に描かれた「生きる美しさ」を読み取ることが、自分の幸福だけでなく相手の幸福も考え、身近な行動の変化をうながすことになり、「幸せを感じる心」を育むことにつながる。

- 椋鳩十作品の主題につながる「生きる美しさ」を読み取ることが十分にできた。

しかし、

- 「自分の幸福だけでなく相手の幸福を考え、身近な行動の変化をうながすこと」については十分ではなかったことから、日常における学習・生活・当番活動・係活動・委員会活動などにおいて、相手意識を大切にしながら人とのつながりの中で小さな幸せを感じられる心を育てていく教育活動を仕組んでいくことが求められる。

6年生修了時に目指す姿

椋鳩十作品から読み広げたり深めたりした「生きる美しさ」や「自他の幸福を大切に
する」という椋鳩十の生き方・考え方を土台に、様々な教育活動の中で身近な行動の変
化を相手との「関係」から意識することで、「幸せを感じる心」を育むことができる。



<p>1年生 国語「ずうっとずっと大すきだよ」 主人公のぼくとエルフとの 関係を読むことを通して、自 分にとって大切な存在は人間 だけではなく、身近な存在で ある動物にもあてはまること に気づく。</p>	<p>2年生 国語「スイミー」 スイミーが海の生き物に出 会って元気をとりもどしてい く場面を読むことを通して、 レオ・レオニが描いた「多様 性を認める互いの関係性」が 大切であることに気づく。</p>	<p>3年生 国語「ちいちゃんのかげおくり」 戦争中も最後まで懸命に家 族と共に生きようとしたちい ちゃんについて読み進めるこ とを通して、あまんきみこが 描いた戦争と平和について自 分なりの考えをもつ。</p>	<p>4年生 国語「ごんぎつね」 ごんと兵十のような立場の ちがうもの同士が分かり合う ことの難しさについて読むこ とを通して、新美南吉が描い た「悲哀の中にある愛のスト ーリー」について読み深める。</p>	<p>6年生 国語「やまなし」 自然界の命の循環の中に 「かわせみの生き方」と「や まなしの生き方」があること をとらえ、宮沢賢治が描いた 人間と自然界との関係につ いて自分の考えを広げ深める。</p>
--	---	--	--	---

国語「人間と動物の関係を考えよう～椋鳩十が描いた世界～」

【主に育てたいESDの資質・能力】
【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】
 作品の主題に迫るような読み方ができているか、生きる美しさ考えた行動ができ
ているか、自分の学び方や生き方を見つめ直すことができている。
【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】
 椋鳩十作品を「生きる美しさ」を軸に重ね読み、作品の類似点に着目することで、作
品と作品をつなげて椋鳩十作品の主題を複数の作品の叙述を根拠にして読み深めこと
ができる。
【コミュニケーション力】
 椋鳩十作品から読み取った自分の考えを「考えフリップ」という形式でまとめ、聴く
ことに主眼を置いた「聴き合い活動」を中心に交流することで、互いの考えを比べなが
ら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
【進んで参加する態度】
 椋鳩十作品を進んで読書し、複数の作品の叙述を根拠にして主題を考えたり、友達と
考えを進んで聴き合ったりして、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。

【主に育てたいESDの価値観】
【世代間の公正を意識できる】
 椋鳩十の作品と当時のインタビューを重ね読み、「椋鳩十が描い
た作品世界」と「椋鳩十が生きた時代背景」をつなげて考えるこ
とは、「動物の習性にことよせて、生きる美しさ、意義を書こうと
思った。」という椋鳩十の考えをとらえることにつながる。
【人権・文化を尊重する】
 椋鳩十の作品と当時のインタビューを重ね読み、「生きる美し
さ」に視点として生き方・考え方を読み取ることが、身近な平和
だけでなく、世界平和の維持・実現に向けた生き方・考え方を育
むことにつながる。
【幸福感を大切にす】
 椋鳩十の作品に描かれた「生きる美しさ」を読み取ることが、
自分の幸福だけでなく相手の幸福も考え、身近な行動の変化をう
ながすことになり、「幸せを感じる心」を育むことにつながる。

<p>当番活動 一人一役の当番や 給食当番の仕事に責 任をもって取り組む ことが、集団との関 係を築く上で大切な ことに気づく。</p>	<p>係活動 よりよい学級を築 くために、自主的・ 主体的に行動するこ とが、クラスメイト との関係を良好にし ることに気づく。</p>	<p>クラブ活動 所属するクラブ で、年下と年上の間 の立場にあることを 意識し、どちらとの 関係でも折り合いを 心がけて行動する。</p>	<p>委員会活動 所属の委員会で、 Think Globally, Act Locally. の見方・考え方をもち、相手意識のある 行動をする。</p>	<p>平和学習 福岡大空襲や沖縄 戦、8.6、8.9につ いて学ぶことを通し て、戦争の悲惨さや 平和の尊さについて 考えを広げ深める。</p>	<p>読み聞かせ 「せかいでいちばんつよい国」 デヴィット・マッキー 強いという見方・ 考え方について自分 の見方・考え方を捉 え直す。</p>	<p>行事（自然教室） 非日常的な体験を 学級や学年の仲間と 共に経験することを 通して、自他を思い やる関係構築の重要 性を味わう。</p>
---	---	---	---	---	---	--